

# ASP.NET WEB APPLICATION

## 8-3 見積管理システムに必要なフォームを作成してコードを記述する

ここでは、見積情報を入力するフォームを作成して、選択した商品やオプション、数量などに応じて見積金額を表示するコードを記述する方法について解説します。

※ページおよびフォームの作成方法については、44～50ページを参照してください。コードの入力方法について、51ページを参照してください。

### STEP-01 見積情報入力フォーム「input.aspx」の準備

見積情報入力フォーム「input.aspx」を作成し、次のようにコントロールを配置しておきます。

「MODEL」コンボボックス (ID「lstModel」)

「商品画像」イメージボックス (ID「imgItem」)

「アーム」コンボボックス (ID「lstArm」)

「背シート」コンボボックス (ID「lstBack」)

「背シート(色)」コンボボックス (ID「lstBKColor」)

「座シート(色)」コンボボックス (ID「lstSTColor」)

「金額・商品画像表示」ボタン (ID「btnDisp」)

「決定」ボタン (ID「btnSubmit」)

「消費税」ラベル (ID「lblTax」)

「小計」ラベル (ID「lblSum」)

「合計」ラベル (ID「lblTotal」)

### STEP-02 定数の宣言

各プロセスで共通して利用する接続情報を定数として宣言エリアに定義します。

```
Const m_strConnection As String = "Initial Catalog=Estimate_Data;
Data Source=Note¥SQLEXPRESS;Integrated Security= SSPI;"
```

1 …文字列定数「m\_strConnection」に接続情報を代入する

### TECHNIC

共通で使用する情報は宣言エリアに記述する

宣言エリアに定数や変数を記述すると、モジュール内の各プロセスで共通に使用することができます。サンプルでは、データベースへの接続情報を宣言エリアに記述し、各プロセスで繰り返し接続情報を記述する手間を省いています。

### STEP-03 商品の情報をクリアする処理

商品がすでに決定されている(小計～合計・商品イメージ画像が表示されている)場合、別商品を選択し直したときに、各値がクリアされるコードを記述します。

```
Protected Sub Clear_Text ()
    lblSum.Text = "" — 1
    lblTax.Text = "" — 2
    lblTotal.Text = "" — 3

    imgItem.Visible = False — 4
End Sub
```

- 1 …「小計」ラベル(lblSum)の値を消去する
- 2 …「消費税」ラベル(lblTax)の値を消去する
- 3 …「合計」ラベル(lblTotal)の値を消去する
- 4 …「商品画像」イメージボックス(imgItem)の画像情報を消去する

### STEP-04 「input.aspx」が読み込まれたときの処理

「input.aspx」が読み込まれたときに、「MODELマスタ」テーブルからデータを取得するコードを記述します。

```
Protected Sub Page_Load(ByVal sender As Object,
ByVal e As System.EventArgs) Handles Me.Load

    If IsPostBack Then
        Exit Sub
    End If
```



ASP.NET 4.5  
開発環境のインストール  
ASP.NETのインストール  
開発の基本  
予約状況確認システム  
在庫検索システム  
ホテル予約システム  
スケジュール管理システム  
見積管理システム

ASP.NET 4.5  
開発環境のインストール  
ASP.NETのインストール  
開発の基本  
予約状況確認システム  
在庫検索システム  
ホテル予約システム  
スケジュール管理システム  
見積管理システム